

中学受験 社会 正誤問題でズバツと正解1 歴史分野 120選 【問題編】 サンプル

【08】律令政治／東邦大東邦

日本の律令制度について述べたものとして誤っているものを次から1つ選び、記号で答えなさい。

- ア：大宝律令が文武天皇(もんむてんのう)のときに制定された。
- イ：収穫物の約3%を納める租という税が課せられた。
- ウ：男性には防人という都を守る兵役が課せられた。
- エ：班田収授の仕組みが取り入れられ、8歳以上の男女に口分田が与えられた。

テーマと出題校を明記しています。

【46】応仁の乱／女子学院

銀閣が建てられた頃に起こった戦乱について述べた文としてまちがっているものをア～オから2つ選び、記号で答えなさい。

- ア：将軍家の跡継(あとつぎ)争いなどがきっかけで起こり、京都が主な戦場となった。
- イ：大名が近畿・中国・四国の3つの陣営に分かれ、どの地域が主導権を握(にぎ)るかを争った。
- ウ：京都の貴族や僧が地方に移り住み、京の文化が地方へ広まった。
- エ：戦後にほうびが与えられなかったため、多くの大名の不満が高まった。
- オ：戦乱の後、京都では有力商人を中心に町の政治が行われた。

難読語には読み仮名をつけています。

【73】江戸時代の交通と都市／駒場東邦

本州日本海側における新潟以外の代表的港町として敦賀(福井県敦賀市)が有名です。しかし、敦賀は江戸時代に西回り航路が開発・整備されると、新潟とは対照的に一時期衰退してしまいました。それはなぜでしょうか。その理由として最も適当なものを次の中から1つ選び、記号で答えなさい。

- ア：江戸時代になると、幕府が置かれた江戸の人口が急増し、江戸は物資の一大集積地となった。そのため、江戸から遠く離れた敦賀は、重要な港ではなくなったから。
- イ：江戸時代になると、政治の中心地から外れた京都の人口が急減し、京都は物資の集積地となくなった。そのため、京都と直結していた敦賀には、物資を運ぶ船がほとんど寄らなくなったから。
- ウ：江戸時代になると、西回り航路が大阪と日本海側の各地の港をつなぐように整備された。そのため、日本海側からの京都への物資は大阪を通じて入るようになり、敦賀から京都へのルートは使われなくなったから。
- エ：江戸時代になると、諸藩の年貢は大阪に集められるようになり、西回り航路が整備された。そのため、京都は物資の集積地としての比重が下がり、京都と直結していた敦賀の重要性も下がったから。

長い選択肢の文の問題も取り上げています。

【91】大正時代／桜蔭

1918年から1928年間の出来事を述べた文として正しいものを2つ選び、記号で答えなさい。

- あ：普通選挙を求める運動がさかんになり、ついに普通選挙制度が制定されて、25歳以上のすべての男子が衆議院議員の選挙権を得た。
- い：労働組合をつくることが認められ、労働争議が頻りに起こるようになった。
- う：日露戦争の後、朝鮮半島に対する支配を強めた日本は、韓国を併合した。

桜蔭・女子学院などは、複数の解答を求められます。

え：日本軍は南満州鉄道の線路を爆破し、この事件をきっかけに満州全土を占領して満州国をつくった。
 お：第一次世界大戦の終わりごろに米などの値段が急に上がったことに対して、米騒動と呼ばれる民衆運動がおこった。

【116】大正・昭和時代の経済史／慶応湘南藤沢

第一次世界大戦から第二次世界大戦までの日本経済の説明として正しいものを選び、番号で答えなさい。

- 1：第一次世界大戦中に好景気をむかえたことで、経済は順調に発展し続けた。
- 2：第一次世界大戦が終わったことで、大きな不況になり、以後、重工業は衰退し続けた。
- 3：第一次世界大戦のころと比べて、第二次世界大戦のころはアジアとの貿易に占める割合が大きくなった。
- 4：第一次世界大戦によって、大きな植民地を獲得し、そこの貿易だけで経済をやりくりできるようになった。

受験生が苦手な経済問題も取り上げています。

中学受験 社会 正誤問題でズバツと正解 1
歴史分野 120 選 【正解&解説編】 サンプル

【08】律令政治／東邦大東邦

問題番号に対応しているので、すぐ参照できます。

【正解】ウ

【解説】

ほとんどの記号(または番号)ごとに解説をつけています。

ア：正

- ・701年、文武天皇(元明天皇の子)のとき、藤原不比等(ふじわらのふひと：藤原鎌足の子)らが中心となって、大宝律令が制定された。
- ・「律」は、刑罰(けいばつ)のことで、今の刑法にあたるきまり。
- ・「令」は、政治の仕組みのことで、今の行政法にあたるきまり。

イ：正

- ・租は、男女共に課された税。庸と調は、男子だけに課された税。

ウ：誤

- ・防人は、北九州の警備をする兵役で、都を守る兵役は、衛士(えじ)という。

エ：正

- ・6歳以上の男子には、2段(約24a)、女子にはその3分の2の約16aの口分田が与えられた。

【コメント】

- ・律令制のもとの税負担に関する問題です。
- ・この時期の天皇は、天智→天武→持統(女)→文武→元明(女)→(知らなくてよい)→聖武の順です。

【46】応仁の乱／女子学院

【正解】イ・エ

【解説】

ア：正

- ・応仁の乱の原因の1つが8代将軍足利義政のあとつぎ問題である。

イ：誤

ウ：正

- ・応仁の乱は、京都を戦場にして11年続いた。そのため、戦乱を避けて地方に逃げた貴族

や僧が、京文化を地方に伝える役目を果たした。

エ：誤

・応仁の乱は、勝敗の決着がつかなかった。そのため、選択肢の「戦後にほうびが与えられなかった」が誤り。

オ：正

・京都は、応仁の乱のあと、富裕な商工業者である町衆(ちょうしゅう)を中心に自治的に運営された。

・祇園祭(ぎおんまつり)は、この町衆が運営したお祭りである。

【コメント】

- ・選択肢オの正誤は、知る必要はありません。
- ・選択肢イとエが誤文であり、選択肢アとウが正文であることをしっかり学習しましょう。
- ・1467年の応仁の乱に関する用語は、足利義政、細川勝元(かつもと)、山名持豊(もちとよ)、日野富子、下剋上、守護大名、戦国大名です。

【73】江戸時代の交通と都市／駒場東邦

【正解】エ

【解説】

正誤を判断するキーワード(重要語群)が明快にわかります。

ア：誤

・「幕府が置かれた江戸の人口が急増」は正しい。18世紀前半では江戸の人口が100万人(武士人口が50万人、町方が約50万人)、大阪が35万人、京都が45万人。

・「江戸は物資の一大集積地となった」が誤り。

・江戸時代は、大阪(注：当時は「大坂」だが中学入試なので「大阪」で統一する)が「天下の台所」であった。

イ：誤

・「政治の中心地から外れた京都の人口が急減」が誤り。

ウ：誤

・「敦賀から京都へのルートは使われなくなったから」が誤り。このような完全否定の文は、誤りである。エの「京都と直結していた敦賀の重要性も下がった」の表現と比較するとよい。

エ：正

・諸藩は大阪に蔵屋敷を置いて、集めた年貢や特産物をここに搬送して売りさばいた。

・蔵屋敷とは、倉庫であり取引所でもあった。

・西廻り航路(東北地方沿岸—日本海—関門海峡—瀬戸内海—大阪)と東廻り航路(東北地方沿岸—津軽海峡—太平洋沿岸—江戸)は、1670年ごろに河村瑞賢(かわむらざいけん)が整備した。

出題意図、出題傾向にも触れているので、学習の指針になります。

【コメント】

・敦賀に関する知識を問う問題ではありません。江戸時代の三都(江戸、大阪、京都)に関する知識を、「敦賀」を題材にして試す問題です。

・また、選択肢ウの解答解説に書いた通り、表現上の適切さも考えます。

・江戸時代の海上交通に関しては、西廻り航路と東廻り航路の他に、樽廻船(たるかいせん)と北前船を覚えておきましょう。

・樽廻船は、江戸と大阪をつなぐ南海路(なんかいり)で使われた船のことです(初めは、菱垣廻船(ひがきかいせん)という船も使われていましたが、樽廻船が優勢になりました)。

・北前船は、蝦夷地や東北地方の物資を西廻りで大阪に輸送した船のことです。

・なお、江戸時代の陸上交通(五街道など)も参勤交代や都市の発達と関連させてよく出題されます。

【91】大正時代／桜蔭

【正解】あ・お

【解説】

あ：正

- ・1925年の加藤高明内閣のもとで、普通選挙法が制定された。
- ・「普通選挙」は、一定の年齢に達した国民に選挙権と被選挙権を与える原則のこと。「普通」とはいつでも女性には選挙権がなかった。

い：誤

- ・労働者の権利を認めるようになったのは、戦後のことである。
- ・いわゆる労働三権は、団結権、団体交渉権、団体行動権(争議権)のこと。労働三権は、社会権に属する。
- ・労働組合法(1945年)は、団結権を保障する法律である。

う：誤

- ・韓国併合は1910年の出来事。

え：誤

- ・1931年に関東軍が南満州鉄道爆破事件を起こし、1932年に満州国を建国した。

お：正

- ・1918年に、富山県の魚津村で発生した米騒動が全国に広がり、内閣が倒れて、原敬(はらたかし)内閣が成立した。これによって、日本で初めての本格的な政党内閣が誕生した。
- ・原敬は、岩手県出身の衆議院議員で、華族や軍人ではなく平民だったので、国民は彼の登場を歓迎した。

【コメント】

- ・1918年から1928年までの主な出来事は、1918年の米騒動と政党内閣成立、1919年のベルサイユ条約締結、1920年の国際連盟設立、1921年から22年のワシントン会議、1923年の関東大震災、1925年の治安維持法と普通選挙法制定、です。

【116】大正・昭和時代の経済史／慶応湘南藤沢

【正解】3

【解説】

1：誤

- ・第一次世界大戦が終わると、ヨーロッパの経済が回復したので、日本は不景気になった(これを戦後恐慌という)。
- ・1929年の世界恐慌の影響を受けて、日本は深刻な経済不況を迎えた。

2：誤

- ・「以後、重工業は衰退し続けた」わけではない。
- ・1929年の世界恐慌のあと、日本経済は衰退したが、1933年には世界恐慌以前の生産水準を回復した。
- ・1938年に、重化学工業の生産額が軽工業を上回った。

3：正

4：誤

- ・日本は、第一次世界大戦で植民地を獲得していない。

【コメント】

- ・選択肢3の正誤を判断するのはとても難しいでしょう。
- ・世界恐慌に関する知識、1930年代の日本の経済の様子を正確に理解していないと、正答に達しない難問です。

明確な学習ポイントを示しています。